

金・土・日・月の
4日間で20時間は
学習時間を確保した
ところです。期
待してます！



HERO
NEWS FROM 1-2

新発田市立七葉中学校
1年2組学級便り
平成30年2月9日
No. 21
文責 加藤育志

いざ 最後のテスト！

13日（火）から1年生最後の定期テストが行われます。3学期唯一の定期テストです。ここが最大の頑張りどころ！この3連休をいかに過ごすかで、結果は大きく変わると思います。

僕がテストにむけて頑張りたいことは、できるだけ一人で勉強することです。前までは弟や周りの雑音が気になって、集中できなかったので、環境を整えたいです。そして、寝る時は早く寝ると良いと聞いたので、早めに取りかかり、寝る時間がおそくならないようにしたいです。



2月の自学優良賞

最優良賞 A・Mさん 平均87分

優良賞

I・Iさん	Y・Kさん	K・Kさん	K・Kさん	A・Nさん
Y・Kさん	R・Kさん	H・Sさん	A・Tさん	

<< ハゲワシと少女 >>

道徳の時間に「ハゲワシと少女」という1枚の写真をめぐる是非について話し合いました。これは1994年にケビン・カーターという報道写真家がスーダンの飢餓を訴えるために撮った作品です。やせ細った少女がうずくまっているのを、間近でハゲワシが狙っています。

この作品はピューリッツァー賞という賞を受賞し、ニューヨークタイムズに掲載されると、絶賛とともに、多くの批判が寄せられたそうです。「なぜ少女を助けなかったのか」という批判は、報道か人命かを問う論争に発展しました。クラスでもどうするべきなのか、2つの立場に分かれて大論争をしました。



A 写真を撮るより少女を助けるべき

- 目の前で少女が亡くなってしまったら、見殺しにしたことになる。
- 飢餓状態は他の写真でも伝えられる。
- 見て見ぬふりは出来ない
- 自分の仕事と人の命では、命の方が大切だ。
- 目の前に苦しそうな人がいたら、助けるべき。
- 命より大切なものはない。

VS

B 報道写真家なら当然

- この写真家も稼がないといけない。
- この状況が公開されれば、支援が増えてもっと多くの命が救えるかもしれない。
- 他にも貧しい人がいる中、この子だけを救っても変わらない。
- 人間も動物の命をいただいているように、このハゲワシも食べないと生きていけない。
- 写真を撮った後、助けに行けば良い。

実際、カーターさんは写真を撮った後、ハゲワシを追い払い、この悲惨な現実を思い、木陰で泣き続けたそうです。少女は自分で起き上がり、食糧配給センターの方へ向かったそうです。

AとBの意見、どちらが正しいかはわかりません。世の中にはこうした葛藤（モラルジレンマ）がたくさん存在します。そこから目をそむけずに、正しいことは何かを考えていくことが必要なのだと思います。授業内では多角的に物事をとらえ、たくさんの意見から視野が広まりました。

以下に授業の振り返りを紹介します。

- 一人より、何百人の命を守るべきという意見になるほどと思った。
- カーターさんおかげで内戦などにより飢えに苦しんでいる人たちや難民の人たちがたくさんいることが再確認できた。
- この写真一枚だけでいろいろな考えが出てくることに驚いた。
- カーターさんはこの少女を助けてもまた人が死んでしまう世の中をすさんだ気持ちになりながら撮り、世界に広めることができたのに、批判されるのはおかしいと思った。
- 一見ただけで決めつけてはいけないと思った。
- 確かに写真のおかげで支援は増えるかもしれないが、一時的なもので、この子の命はその時にしか存在しないから、助けるべき。
- 命より高価なものは存在しないと思った。これからも命を大切にしたいと思う。
- 写真を撮ったことは正解だったと思った。このおかげで助けられた人もいたのではないかしらと思うし、自分もこうして知ることができた。